

(別紙様式3)

令和2年3月27日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 静岡県静岡市葵区追手町9-6
管理機関名 静岡県教育委員会
代表者名 木苗 直秀

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

- 事業の実施期間
契約締結日～令和3年3月31日
- 指定校名・類型
学校名 静岡県立熱海高等学校
学校長名 石田 金也
類型 地域魅力化型
- 研究開発名
外部資源を有効に活用した、地域を担う「人財」の育成
～地域に育ち、地域に育ててもらおうキャリア教育～
- 研究開発概要
地元企業、自治体（熱海市）、法人会、小中学校等と連携・協働した、地域課題解決のための探究的な学び等を通して、地域に対する課題意識や貢献意識を育み、地域を担う「人財」の育成を図る。
- 教育課程の特例の活用の有無
なし
- 管理機関の取組・支援実績
(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指定校への指導・助言												
コンソーシアム運営指導委員会			○				○				○	
コアスクール情報交換会				○						○		

(2) 実績の説明

・運営指導委員会

①構成員

氏名	所属・職	備考
武井 敦史	静岡大学大学院教育学研究科教授	学校教育に専門的な知識を有する者
伊藤 文彦	静岡大学地域創造学環教授	学識経験者
望月 宏明	静岡県東部地域局長	関係行政機関の職員
藤田 尚徳	株式会社なすび専務取締役	民間企業
鍋倉 伸子	特定非営利活動法人清水ネット会員	NPO
杉 雅俊	静岡産業大学総合研究所参与	産業界

②活動内容

活動日程	活動内容
令和元年 10 月 4 日	第 1 回運営指導委員会 事業概要説明、事業経過広告、今後の活動、質疑応答、意見交換等。
令和 2 年 2 月 13 日	第 2 回運営指導委員会 授業見学、取組内容の説明、生徒との意見交換、協議。

・コンソーシアムの構成

機関名	機関の代表者名
静岡県立熱海高等学校 (コンソーシアム代表機関)	校長 石田 金也
熱海市役所	産業振興室 室長 長谷川 智志
熱海伊東法人会青年部	株式会社タケヒラトーヨー 竹平 太郎
熱海市立多賀小学校・多賀中学校	校長 戸田 太郎・校長 内藤 弘美
地元企業 熱海ガス、ホテルニューアカオ他	各企業 代表
伊豆半島ジオパーク推進協議会	ガイド担当 小野 英樹
静岡県教育委員会	教育長 木苗 直秀

・カリキュラム開発等専門家

静岡文化芸術大学准教授 船戸 修一氏 年 5 回来校

・地域協働学習実施支援員

FIREBUG P-NEWS Dept. コンテンツチーフアドバイザー

水野 綾子 氏 年 20 回程度来校

・管理機関における、国費に上乗せした独自の支援や取組の実施

県費の事業として魅力ある学校づくり推進事業を実施し、熱海高等学校等をコアスクールに指定し、高等学校の特色や現状に応じた取組を支援した。7月24日、1月28日に指定校の情報交換会を実施した。

・高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

熱海高等学校と熱海市役所の間で、地域の課題等に対し、協働した取組を通して、豊かな地域社会の形成・発展と地域産業を担う人材の教育支援や育成等について、相互に協力することを目的とした連携に関する協定を締結している（「静岡県立熱海高等学校と熱海市との地域連携に関する協定書」）

・事業終了後の自走を見据えた取組について

今後 2 年間で、PDCA サイクルに基づき検証を行い、カリキュラム開発、探究的な学習活動の内容と指導方法、地域との連携を確立し、事業終了後も熱海高等学校の取組が継続的なものとなるよう、支援する。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な探究の時間における探究活動	1回	1回	1回	1回		1回	1回	1回	1回	1回	1回	

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- ・総合的な探究の時間における地域課題探究活動
- ・各教科における総合的な探究の時間及び教科間と連動した取組
- ・コンソーシアムと連携した部活動の取組

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

以下の探究的活動を総合的な探究の時間を活用して実施した。

1年次では「職業インタビュー」を通し、勤労観・職業観を育み、2学期より「地域社会の課題の一端を知り、その原因を探る方法や解決をしようとする姿勢を身に付ける段階」として「地域の課題を知り、自分たちなりに解を求め、発表する」ことをゴールとした課題探究活動（「熱高ラボ」）を実施した。

2年次では「地元自治体や企業とともに高校生として何ができるかを体験し、自ら考え行動する力を養う段階」として、4月より課題探究活動（「熱海ラボ」）を実施した。毎月1回、地域協働学習実施支援員が来校し、課題の捉え方、問いの立て方を学習し、コンソーシアムを構成する企業等と協働することにより課題解決探究活動に取り組んだ。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

本年度はすべての教科において総合的な探究の時間と連動した取組を実施できたわけではないが、下記の教科において実施した。

（家庭）3年の「フードデザイン」の授業で、熱海特産品を活用して新たな調理法を開発した。食育カレンダーを作成し、県内の関係小中高校等に配布した。（12時間）

（理科）3年の「課題研究」の授業において、地元多賀地区のハザードマップを基に避難経路を確認した。また伊豆半島ジオパーク推進協議会との協働による地元防災教室を自治会代表、熱海市役所、マスコミ等に参加を依頼し実施した。（24時間）

（商業）

・2年の「ビジネス基礎」の授業内で熱海伊東法人会と協働し、熱海における起業についてグループワーク等を行った。（4時間）

・3年の「観光資源」の授業内で「高校生エージェント」を実施した。（20時間）

・3年の「商品開発」の授業内で「熱海レモン」を使った商品開発をJA等と協働して行った。（14時間）

（英語）1, 2年の「コミュニケーション英語」の授業内で熱海を舞台にした英会話を年間を通じて帯活動として取り組んだ。

（地歴）3年の「地理」の授業内で熱海の地形図を取り扱った。（3時間）

（福祉）

・2, 3年の「社会福祉基礎」の授業内でコンソーシアム構成メンバーである熱海市立多賀小学校の特別支援学級の生徒と染色体験及び販売体験を行った。（18時間）

・2, 3年の「生活支援技術」の授業内で地元の特別養護老人ホームにおいて介護実習を行った。（30時間）

・3年の「社会福祉基礎」の授業内において熱海市社会福祉協議会と連携し、「いきいきサロン」に参加し、介護予防に努めた。（4時間）

・3年の「社会福祉基礎」の授業内において熱海市観光福祉マップの作成に取り組んだ。（6時間）

・3年の「生活技術支援」の授業内において、熱海市の高齢化問題に対応するための介護食品開発プロジェクトに取り組んだ。(10時間)

(エイサー部、ボランティア部) 通年に渡って、施設等に訪問し、地域の祭りやイベントに参加した。

(運動部) 運動部の一部が人口減により参加者が減少する伝統的な祭りに参加し、祭りを盛り上げた。

(パソコン部) 熱海駅等で熱海の特産品の実習販売を行い、地元特産品の普及に努めた。

④成果の普及方法・実績について

・令和2年2月25日に研究成果発表会を実施し、事業の成果を発表した。

・研究成果をまとめた冊子や映像資料等を各高等学校に配布した(3月)。

・取組内容を頻繁に報道提供し、新聞やテレビ等マスコミに取り上げてもらい事業の広報に努めた。

・取組内容をまとめた広報誌を毎月作成し、熱海市内の各自治会に対し回覧版の形で広報した。

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

・静岡県教育委員会を管理機関として、その下に運営指導委員会を設置し、年2回の委員会を開催することにより、当該校における取組に対し指導助言を行った。

(第1回 令和元年10月4日(金) 午前10時から11時45分まで 会場 県庁)

(第2回 令和元年2月13日(木) 午後2時10分から4時30分まで 会場 熱海高校)

・<コンソーシアム>

熱海高等学校を地域協働推進校とし、県教育委員会、熱海市役所、地元企業、熱海伊東法人会、伊豆半島ジオパーク推進協議会、熱海市立多賀小学校・中学校により構成されるコンソーシアム委員会を開催し、地域協働の目的、方法等について協議した。

(令和元年6月28日 午後3時から4時45分 会場 熱海高校)

コンソーシアムメンバーからは「高校生と協働する目的は利益追求ではなく、生徒に地域の人との関りを深めてもらいたい。」という意見や、「企業側としては地元の高校生と協働することにより、社員が新たな観点で地域や事業を見直すきっかけとなっている。」等の意見が出された。

また、地元小中学校からは、現在の取組を可視化し、幼小中高の活動を有機的に結び付ける工夫が必要だという意見が出された。

さらに、総合的な探究の時間「熱海ラボ」、観光ビジネス類型、教科においてコンソーシアム構成メンバーと地域課題に対し、問いを立て、その解決方法を見出す取組を年間を通じ、定期的に行った。

しかし、カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組については、カリキュラム開発全体にコンソーシアムが関わる体制に至っていないため、コンソーシアム自体がより関われるような体制を整備していきたい。

②学校全体の研究開発体制について(教師の役割、それを支援する体制について)

校内に探究的活動の研究開発に取り組む「探究グループ」、教科横断的活動の研究開発に取り組む「教科グループ」、コンソーシアム等地元企業や自治体等との連携推進に係る研究開発に取り組む「連携推進グループ」、「探究力」「主体性」「協調性」といった生徒の資質・能力を測る研究開発に取り組む「評価開発グループ」を設置し、地域との協働事業の円滑な推進に成果を挙げた。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

地域協働推進支援員及びカリキュラム等開発専門家が参加する校内地域連携推進委員会を月1回程度開催し、研究開発の進捗状況等を協議した。今年度は個別の地域貢献活動に対する意見等を活動に反映することができたが、カリキュラム開発全体に関わるまでに至らなかったのが来年度への改善事項である。

[カリキュラム開発専門家]

静岡文化芸術大学准教授

船戸修一氏 年5回来校

活動日程	活動内容
令和元年5月31日	第1回校内連携推進委員会に出席 ・本年度の計画の確認、地域連携の実績に係る講演を教職員対象に実施 「研究課題である限界集落に係る講演内容により、関係人口の維持を目指すことが重要である」との提言を得た。
令和元年9月27日	第3回校内地域連携推進委員会に出席 全校生徒に対し、過疎地域における集落の在り方について講演 「家族が帰省の頻度を増やしたり、地域行事に参加することにより集落を維持している事例や関与型フィールドワークの重要性」について生徒にわかりやすく説明した。
令和元年11月1日	第4回校内地域連携推進委員会に出席 ・総合的な探究の時間（熱高ラボ、熱海ラボ）の進捗状況について協議 「地元の特産物等を商品開発につなげる事例」についての提言があった。
令和元年12月6日	第5回校内地域連携推進委員会に出席 ・育成したい生徒像について協議
令和2年2月14日	第6回校内地域連携推進委員会に出席 ・今年度の振り返りについて協議 「地域と関わりなく訪れる観光客（交流人口）ではなく、ふるさと納税やボランティアを通じて何かしら地域と関わる多様な人（関係人口）の創出に向け「卒業生」という潜在的資源の積極的活用の重要性」について提言があった。

[地域協働学習実施支援員]

FIREBUG P-NEWS Dept. コンテンツチーフアドバイザー

水野綾子氏 年20回程度来校

活動日程	活動内容
令和元年5月30日	2年生「総合的な探究の時間（熱海ラボ）」に出席 ・熱海の抱える課題について生徒と共有し、＜自分の中の「課題」を見つける＞ことについて協議。
令和元年5月31日	第1回校内連携推進委員会に出席 ・本年度の計画の確認
令和元年6月20日	2年生「総合的な探究の時間（熱海ラボ）」に出席 ・どのように良い議論、良い対話が生まれるのかについて生徒と協議
令和元年7月22日	2年生「総合的な探究の時間（熱海ラボ）」に出席 ・企業と生徒とが各企業が抱える課題等について協議する場を設定し、実際に高校生が各企業と協働し、課題を解決することに係る協議
令和元年9月26日	2年生「総合的な探究の時間（熱海ラボ）」に出席

	・連携企業へのフィールドワークに同行した。生徒は当該企業を訪問して、社員と協議することで課題抽出に取り組んだ。
令和元年 9 月 27 日	第 3 回校内地域連携推進委員会に出席 ・ 2 年生「総合的な探究の時間（熱海ラボ）」の取組等について協議
令和元年 10 月 31 日	2 年生「総合的な探究の時間（熱海ラボ）」に出席 ・ 9 月に実施したフィールドワークを踏まえて、具体的な課題設定を協議
令和元年 11 月 1 日	第 4 回校内地域連携推進委員会に出席 ・ 総合的な探究の時間（熱高ラボ、熱海ラボ）の進捗状況について協議
令和元年 11 月 14 日	2 年生「総合的な探究の時間（熱海ラボ）」に出席 ・ 各企業の抱える課題について考え、さらに課題解決について協議
令和元年 11 月 15 日	2 年生「総合的な探究の時間（熱海ラボ）」の事前打合わせに出席 ・ これまでの取組と今後の取組について教職員と協議
令和元年 12 月 6 日	第 5 回校内地域連携推進協議会 ・ 教職員対象に実施した生徒の能力等について協議
令和元年 12 月 12 日	各班で設定した課題に対し、考えられる解決方法について中間発表を行い、生徒同士でフィードバックを実施
令和元年 12 月 23 日	2 年生「総合的な探究の時間（熱海ラボ）」の事前打合わせに出席 ・ 次年度におけるコンソーシアムとの連携について協議
令和 2 年 1 月 16 日	2 年生「総合的な探究の時間（熱海ラボ）」のフィールドワークに参加し生徒の探究活動の指導を行った。
令和 2 年 2 月 13 日	2 年生「総合的な探究な時間（熱海ラボ）」の年間に渡る探究活動に係る各班のプレゼンテーションの指導・講評を行った。
令和 2 年 2 月 14 日	2 年生「第 6 回校内地域連携推進委員会」に参加し、今年度の探究活動の振り返りと、来年度の計画について協議した。

以上、カリキュラム開発専門家や地域協働学習支援員の提言をカリキュラム開発にできるだけ活かす方向で取り組んでいる。来年度についても引き続き協働を進め取組内容の改善に努めていきたい。

8 目標の進捗状況、成果、評価

目標設定シートに記載した 2019 年度及び 2021 年度の目標値は下記のとおりである。

1 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

- ・本構想の取組により自分なりに地域課題を認識し、解決する意欲をもって取り組むことができた生徒の割合

2019 年度【88%】2021 年度目標値【75%】

- ・卒業後、地域に留まるまたは将来戻るつもりであると回答する生徒の割合

2019 年度【80%】2021 年度目標値【80%】

- ・本構想の取組において、探究的な学びを実現する学習を通じて地域課題に取り組む生徒の人数

2019 年度【246 人】2021 年度目標値【250 人】

2 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

- ・探究的学習に繋がる地域連携を実施した回数

2019 年度【11 回】2021 年度目標値【20 回】

- ・地域協働推進校としての研究発表会

2019 年度【1 回】2021 年度目標値【1 回】

- ・本構想の趣旨を理解し、意欲的に取り組む教員の割合
2019年度【100%】2021年度目標値【100%】
- 3 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）
- ・地域で行われる活動に進んで参加している生徒の割合
2019年度【70%】2021年度目標値【55%】
 - ・地域貢献活動を本校に対し依頼する事業所等の数
2019年度【66か所】2021年度目標値【70か所】

聞き取り等アンケートを通じて確認できた意欲的に取り組む教員の割合は100%であった。この数値から見ても分かるように本構想に教職員が一丸となって取り組む体制がこの一年をかけて構築されたと思われる。探究、評価、連携、教科等の各グループにおいて教員が主体的に事業に取り組んだことにより、生徒の変容に繋がったと思われる。

9 次年度以降の課題及び改善点

課題及び改善点

(1) コンソーシアムの在り方について

コンソーシアムの構成メンバーと本事業を進める上で、事業の目的等を共有することの難しさを痛感している。

コンソーシアム委員会を6月に開催し、本事業の目的等を説明したが、研究を進める上で、校内において改めて本事業の目的や方向性を確認することが必要となったため、地域連携に係る協議は実施したが、第2回目のコンソーシアムを開催し、今後の方向性等を学校として提示する段階には至らなかった。

来年度早々、地域協働推進支援員、カリキュラム等開発専門家とともに、コンソーシアムの在り方を再確認するとともに、進捗状況に応じてその都度、目的や手法の見直しを図り、改善することが求められる。

(2) 各教科における教科横断的取組について

本年度は教科横断的な取組は研究開発の段階に留まり、本構想の趣旨に即した探究学習及び教科横断的学習は実施できていない。

来年度使用する、各教科のシラバス作成段階において複数教科が協働する学習形態を各教科、科目において掲載し、実施することとしている。

【担当者】

担当課	高校教育課	T E L	054-221-3165
氏 名	磯部 幸宏	F A X	054-251-8685
職 名	教育主幹	e-mail	kyoui_koko@pref.shizuoka.lg.jp